

メッセージ

ジェニファー・リアン

第1回庭野平和賞奨励賞受賞者

第1回庭野平和賞奨励賞の受賞者の一人となれたことを、大変光栄に思います。第1回目の受賞者であるということは、今後、庭野平和賞奨励賞という偉大な遺産を重ねていく上での先駆者あるいは模範の人となるという危険をはらんでいます。そのため、私は非常に謙虚な気持ちでこの責任を引き受け、そして私をこの賞にふさわしいと認めてくださった庭野平和財団と日本の人々に感謝するものです。

この賞で「奨励」を指す語にあたる「Visionary(ヴィジヨナリー)」という語の定義には、先見、将来像や未来像を持っている、夢をもっている、というような意味が含まれます。これを考える時、私は、世界や地域社会にとっての、私に関わる組織や機関にとっての、その中にいるすべての人々、そしてそれらすべてに関わる私自身にとっての、平和を夢見る多くのビジョンを私自身が持っていることに気づかされます。ビジョンが単なる夢としてのことだけなら、仕事はずっと楽しんで。しかし、夢だけでなく、夢を行動に移すかどうかで、ヴィジヨナリーな者とたんなる空想家は区別されるのです。第一に、より平和で、愉快で、公正で、思いやりがあり、平等で、持続可能な、より良い世界を強く望む情熱を持つこと、第二に、思い描いていることと現実とのギャップを見分ける知恵を持つこと、第三に、これが最も重要ですが、このギャップを埋めるための行動する**勇気を持つこと、です**。それが真のヴィジヨナリーな者であり、行動する理想家なのだと思います。

インドでは、幸運なことに、これまでも、そして現在も、最高のヴィジヨナリーを持った人々が活躍しています。多くの先輩、同僚、友人、同志が、地球と人間の両方を深く慈しみ、その知恵と経験を通じて、複雑な社会的課題に取り組むための解決策を考案し、これらの人々によって、何年も、いや何十年も、そのビジョンを実現するために心の底から行動する勇気が現在まで蓄積されてきました。私はこれらのすべてのヴィジヨナリーの人々に敬意を表し、今日、私にこの賞が授与されるということは、それは私を通しつつも、本当はそうした多くのヴィジヨナリーの一人ひとりの情熱、知恵、勇気が認められたのだと感じています。

貧困、飢餓、あるいは食料と尊厳ある仕事を求める何百万人もの人々の闘い、生き残るために必死な紛争や戦争の状況下にある難民、気候変動と嵐、水不足、死を招く都市部の汚染された空気など、今日、地球規模で生じている危機の中に私の国のみならず世界の多くの国々が立たされています。私の国では、一握りの人々が想像を絶するほど裕福になった一方で、多くの人々が日を追うごとに脆弱化し、多くは経済的にも社会的にも疎外されるようになりました。インドでは一部の女性は特定の分野で成功を収めていますが、多くの女性は、男性に与えられているような尊厳、自由、特権を持つ平等な人間であるという基本的な認識がなされることが否定されています。トランスジェンダーやノンバイナリーは、言うまでもなくその闘いはさらに深刻です。宗教的多数派が少数派に対して持つ憎しみを、政治は自らの武器として利用し、少数派の人々に対してあらゆる種類の虐待、苦悩、迫害、屈辱を与えるようになってきました。このことは、まともで公正、人道的で、思いやりがあり寛容な社会であるわが国の社会基盤に、すでに取り返しのつかないダメージを与えています。

こうした中、本来であれば、市民社会は、国家と地球がこれらの巨大な課題に取り組むのを支援するために、より強い行動をとるべきですが、残念ながら、逆のことが起こっています。今日、私の国では、国家が市民社会の取り組みに対して極めて疑い深く、警戒心を持ち、敵対しているため、行動す

理想家であり続けることがますます困難になってきています。過剰で絶えず変化する強権的な法律のために、ほとんどの市民社会組織は、効果的に活動を継続させることや、活動のための資金などの資源を調達することが難しくなっています。しかしそれ以上に、市民社会組織やその活動の評判を何とか落とそうとする絶え間ない試み、そして犯罪化の脅威が、コミュニティ内の最貧困層や女性、子ども、若者、農民、織物業者、精神障害者、森林居住者、その他多くの弱者の生活を変えるために誠実に働く私や仲間たちの士気やモチベーションを傷つけています。

今日、私たち行動する理想家にとっての挑戦は、たとえ評判や自由が危機にさらされても、あるいは手足、そしておそらく生命さえ危険にさらされても、何が正しくて何が必要なのかというヴィジョンを実行し続けることです。しかし、それだけでなく、個人として行動しながら、周囲の人々、特に新しい世代の人々に、変革のためのヴィジョンを実現するための、勇気ある行動を促す必要があるのです。副賞の賞金で、私はその方向へ一歩を踏み出したいと思っています。特に、北東インドの市民社会組織に属する女性、トランスジェンダー、ノンバイナリーの人々の中から、行動する理想家を増やすための変革プログラムの設計と開発を始めたいのです。私は、情熱的で、賢く、勇気があり、ヴィジョンを持っている次世代のリーダーたちの能力を組織化し、構築することを手助けしたいと考えています。彼らは頭（知識と経験）、心（価値観、思いやり、勇気など）、手（行動するためのスキルと能力）を使って、社会から疎外された弱い立場の人々の生活や地球にポジティブな変化をもたらすことができるのです。

しかし、その過程で、彼らは深く自己を認識し、より良い自分を作り上げるために成長しようと努力します。彼らは喜びを感じ、大きな責任を自覚しながらも、その重荷を軽々と背負うことができるのです。未来の行動する理想家たちが直面する不釣り合いなほど多くの課題を前にして、彼らは他人のため、地球のために働きながらも、自分自身を大切にできる人々でなければなりません。私は、次世代のチェンジメーカーたちが、自分自身の健康、喜び、幸福、平和と、他人や世界のために望む健康、喜び、平和、幸福を同じように大切にしてくれることを願っています。

彼らは、自分たちを取り巻く複雑な現実を見て理解する頭（知識）を持つ一方で、こうした複雑な状況を変え、変革をもたらす解決策を自分達でデザインする方法も持っています。最も重要なことは、恐怖や孤独のために、彼らの手が無意識のうちに麻痺してしまうことがないことです。行動するためのスキルと能力とともに、彼らはチームワークとアライアンスの力を大切にしていってほしい。自分自身や組織を支える強力なエコシステム（協調関係）も構築していきますが、実際に困難に直面しながら、どのように皆で力を結集すればいいのか、必要とされているものを得るために、どのように他者とともに働けばいいのか、そして変革と平和のために、どのように勇気ある行動を起こせばいいのか、それらを知っていくのだと思います。

平和構築のための建設的で変革的な活動の必要性を認めてくださった庭野平和財団に、あらためて感謝いたします。この賞を受け取る手と映し出される顔は私ですが、私がここまで来るのに大変な激務をしてきて下さった多くの同僚がいます。この賞の栄誉は、他ならぬ彼らの献身と犠牲、そして働きにも与えられるものなのです。庭野平和財団に、そして財団を通じて日本の皆様に、寛大さ、信頼、そして私たち皆のより良い世界を信じて下さっていることに感謝いたします。平和のヴィジョンを構築するためのこの賞は、複雑な課題に満ちた世界において私たちとあなた方を一緒に結びつける希望の鍵なのです。その希望に私は感謝しています。

ジェニファー・リアン

2022年12月6日

アッサム州にて